

日時 令和8年6月8日（月曜日）午前9時30分～（質問順1番から2番まで）
 場所 新宮町役場 3階 議事堂

順	議員名	質問事項	質問要旨	答弁者
1	大牟田 直人	公共施設のユニバーサルデザインに当事者が参画する仕組みづくりを	<p>ふれあい交流館の多目的トイレにおいて、車椅子利用者から「内側の鍵に手が届かず、自分で施錠できない」との声が寄せられたため、現地を確認し、担当課へ報告した。</p> <p>施錠は、プライバシーの確保や安心して利用するための基本的な行為であり、それができない状況は、利用者の自立した利用を妨げる重大な不便であると考えます。</p> <p>この課題は一施設の問題にとどまらず、設計・整備の段階で実際の利用者の身体特性や動線が十分に考慮されていなかった可能性があり、同様の問題が他の町内公共施設にも潜在していることが懸念される。この事例を町内公共施設全体のユニバーサルデザインのあり方を見直す契機とし、誰もが安心して利用できる環境を整えるためには、設計段階から利用者の視点に立った継続的な点検と改善が不可欠である。</p> <p>全国では、障がい当事者が参画するヒアリングや意見交換会、ワークショップなどの仕組みを導入し、施設整備や改善に生かしている自治体もある。こうした取り組みは、共生社会の実現に向けた大きな力となっている。</p> <p>本町においても、公共施設整備に当事者が参画することは、協働のまちづくりの推進、そしてユニバーサルデザインの実現につながると考える。</p> <p>そこで、次の4点を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町内公共施設における多目的トイレのユニバーサルデザインの現状（設備の高さ・位置・操作性、動線など）をどのように把握しているか。また、今回寄せられた車椅子利用者からの声について、どのような対応を行ったか。 2 現在、町内公共施設に関して、障がい当事者からの意見や不便の把握・検証はどのように行っているか。 3 今後の公共施設整備において、障がい当事者の意見を取り入れる仕組みを導入する考えはあるか。 4 既存公共施設において、住民参加型のバリアフリー点検など、障がい当事者と協働して改善につなげる仕組みを導入できないか。 	町長

順	議員名	質問事項	質問要旨	答弁者
2	安武 久美子	小さく生まれた赤ちゃんのお母さんが安心して子育てできる環境整備を	<p>本町では「こども家庭センター はぐうる」を中心とした伴走型の寄り添った子育て支援が進められている。一方で、小さく生まれた赤ちゃんが NICU（新生児集中治療室）等に入院している間、保護者が日々直面している負担には、まだ十分な支援が届いていない。</p> <p>その代表が「搾乳」の負担である。赤ちゃんに母乳を届けるため、母親は3時間おきに1日8回近くの搾乳を、退院までの数か月間続けなければならない。母乳を維持するには手動または電動搾乳機の購入やレンタルが必要で、レンタル費用は月額数千円にのぼる。さらに母乳を衛生的に運ぶための使い捨て冷凍母乳パックの費用も毎日かかり、経済的・精神的な負担は非常に大きい。</p> <p>本町の「出産・子育て応援給付金」等は一般的な出産・育児を対象としており、こうした数か月にわたる搾乳費用には対応できていない。鹿児島県日置市では令和8年4月より、搾乳機費用および冷凍母乳パック費用への公的助成を全国に先駆けて開始しており、本町でも早急な検討が必要である。</p> <p>また、公共施設の授乳室は「直接授乳でないのに授乳室を使ってよいのか」という遠慮から搾乳を断念するケースもある。搾乳目的での利用が可能であることを案内・周知する取り組みが求められる。</p> <p>国が掲げる『こども大綱』（令和5年12月閣議決定）の「切れ目のない子育て支援」の方針も踏まえ、次の3点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本町における直近の年間出生数、低出生体重児数、および養育医療対象児数はどれくらいか。また、現在実施している支援施策の内容はどのようなものか。 2 NICU 等に入院中の乳児を持つ保護者を対象に、搾乳機費用および冷凍母乳パック費用への公的助成制度を新設すべきと考えるが、見解を伺う。 3 公共施設における授乳室の設置状況はどうか。搾乳を含む多様なニーズへの環境整備と、「さく乳できます」マークのような周知・啓発の導入を検討する考えはないか。 	町 長